

加賀毛針

歴史

加賀毛針の起源は明らかではないが、加賀藩では武士の特権として鮎釣りが認められていた。このため、武士が個々に工夫して鮎毛針を考案し、また下級武士の内職としても作られていた。

明治7、8年(1874、1875)ごろ、釣りが一般に開放され、専門の釣り針屋が営業を始めるようになった。明治23年(1890)には、内国勸業博覧会に出品し、その美しさから高い評価を受け、東京を中心に全国に販路を拡大していった。戦時中、ぜいたく品として需要が落ち込んだが、近年の釣り人口の増加で加賀毛針は根強い人気を誇っている。



特色

疑似餌[ぎじえ]に見せる部分の原材料は、主に野鳥の羽毛を用いる。そして、ハリスは本テグスを用い、ハリスと針の接合部には光明丹[こうみょうたん]と漆、金箔を使って接着し、毛巻きには絹糸を使用する。このことが、水中でも長時間の使用に耐える実用性に優れた針を作り出す秘訣である。

加賀毛針は大切に扱えば、100匹以上の鮎が上がると言われており、耐久性と同時に、針巻き師と釣り人が針と釣果について絶えず情報交換をし、改良を重ねてきた結果と言える。



加賀毛針

历史和特色

加賀毛針の起源虽不明确，但是在加賀藩武士有钓香鱼的特权。因此，武士们各自都下功夫钻研作钓香鱼的毛针，到明治7、8年(1874、1875)左右，钓鱼权利也向一般人士普及开放，专业的钓鱼用具店开始兴起。在明治23年(1890)，加賀毛針在内国勸業博覧会上展出，因其美丽而受到了很高的评价。近年来随着钓鱼人口的增加，加賀毛針一直享有很高的人气。

仿真鱼饵部分的原材料主要使用的是野鸟的羽毛，而钩线是用本天蚕丝，钩线和针的接合部是用光明丹、漆、和金箔连接起来，毛卷是用绢丝制造而成。由此秘诀制成的优秀毛针即使长时间泡在水中仍然经久耐用。

▶ 情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	毛針、アクセサリー(毛针、饰品)
主な生産者(主要生产者)	加賀毛針の会(家賀毛針会)

〒920-0854 金沢市安江町11-35 (金泽市安江町11-35) TEL (076) 231-6371